

加害者に対する思い

43歳 女性

うちの娘が交通事故に遭ったのは、4月の始業式前日の事でした。

幼稚園で交通安全のお姉さん達のお話が毎月あっていて、横断歩道の渡り方など勉強していたので、手を上げて渡りたくて仕方がなかったのだと思います。

車は必ず横断歩道で止まってくれると思っていたのでしょうか。でも、脇見運転していた車にはねられました。

私が、買い物から帰宅すると、娘が救急車で搬送された事を聞きました。

意識があるのかないのかも分からず、はねられた現場に足止めさせられていたので30分から40分会いにも行けず、気が動転して震える足で病院へ行きました。

私が病院に着くと、泣きながら先生達と会話をしている娘がいました。その姿を見て、「あ～生きてる、よかった。」と思い、ホッとしました。

その後、先生からレントゲンの結果の説明があり、「開放骨折がありますが、成長には影響ないと思いますので…」と言われ、また少しホッとしました。

そして、怪我した部分も幸い左足の膝の下だったので膝も無事だと思い、またまた、ホッとしました。

加害者のことを初めて書きますが、はねた後、その場で警察から事情聴取を受けていました。

私は、不思議なのですが、その加害者の男性を責めようとは思いませんでした。それよりも娘が生きていたことが何より嬉しかったからです。

娘の入院生活が始まり、1週間に2回程、加害者の家族がお見舞いに来てくれました。

加害者側も私達と同じ小さい子どもさん達がありました。

私達も、運転する者として、気を付けていても危険な事は多々あります。

警察の方に、「加害者側にどういう罰を？」と聞かれた時、同じ子どもを持つ親として、子どもをはねたというのは、たぶん加害者もかなりショックを受けたのではないかと思います。

娘の入院は約2か月続き、まだ幼稚園なので親の付き添いが必要で、私は、夕方まで付き添ったあと、家に帰って次の日の準備をして、また、2時間後に病院へ行くという

毎日でした。

私がいないうち2時間は父親が付き添って来ていましたので、入院生活が家族にとって一番辛かったです。

どこまで加害者側に責任を取ってもらえるのか分からなかったのですが、加害者が、車の任意保険をかけておらず、自賠責のみの加入だったので、相当、支払いはきつかったのではないかと思います。

主人とも話すのですが、「何で車の保険をきちんとかけんとかな？保険さえきちんとしておけば…」と。

娘は今のところ事故の後遺症もなく、みんなに「事故に遭ったのが嘘のようだね。」と言われるくらい回復したから加害者を許せるんだと思います。

運転する者として、脇見運転はもちろん、飲酒運転は絶対にダメですね。それと最近、信号無視をする車をよく見かけます。

「えっ！今こっち青だったよね。」と、本当にここ最近よく言います。

みなさんも運転するなら周りをよく見て、気を付けて運転しましょう。

本当に命があって良かった。

